



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」にかかる
文化審議会の審議結果について（お知らせ）

本日、国の文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会が開催され、別添（文化庁報道発表資料）のとおり、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の正式版推薦書を提出することが了承されましたので、お知らせいたします。

今後は、世界遺産条約関係省庁連絡会議での審議及び閣議了解を経て、正式版推薦書をユネスコ世界遺産センターへ提出することとなります。

【参考：今後の予定】

平成29年2月1日まで	関係省庁連絡会議及び閣議了解を経て、正式版推薦書をユネスコ世界遺産センターへ提出
平成29年9月頃	イコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査
平成30年5月頃	イコモス勧告
平成30年夏	ユネスコ世界遺産委員会で決議

- 問合せ先 - 長崎県世界遺産登録推進課

課長 村田 利博
(担当：村崎、五貫)

ダイヤル：095-894-3171
県庁内線：3171～3174

平成28年12月22日

文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会（第3回）について

本日12月22日（木）に開催された標記会議において、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の推薦書（正式版）をユネスコ世界遺産センターへ提出することが了承されましたので、お知らせします。推薦資産の概要等は別添資料を参照願います。

<担当>

文化庁文化財部記念物課

世界文化遺産室長 岡本 任弘（内線4784）

文化財調査官 鈴木 地平（内線4763）

係長 坂本 真樹（内線2877）

電話：03-5253-4111（代表）

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」について

【構成資産】

原城跡，平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳），平戸の聖地と集落（中江ノ島），外海の出津集落，外海の大野集落，黒島の集落，野崎島の集落跡，頭ヶ島の集落，久賀島の集落，奈留島の江上集落（江上天主堂とその周辺），大浦天主堂（以上長崎県），天草の崎津集落（熊本県）

【概要】

本資産は、16世紀にキリスト教が大航海時代を背景に極東の国日本へ伝来し、その後の江戸幕府による禁教政策の中で「潜伏キリシタン」が密かにキリスト教への信仰を継続し、長崎地方の各地において厳しい生活条件の下に、既存の社会・宗教と共生しつつ、独特の文化的伝統を育んだことを物語る貴重な証拠である。

潜伏キリシタンの文化的伝統が形成される契機となる出来事が考古学的に明らかにされている原城跡，潜伏キリシタンが密かに信仰を維持するために様々な形態で他の宗教と共生を行った集落（平戸の聖地と集落・天草の崎津集落・外海の出津集落・外海の大野集落），信仰組織を維持するために移住を行った離島部の集落（黒島の集落・野崎島の集落跡・頭ヶ島の集落・久賀島の集落・奈留島の江上集落（江上天主堂とその周辺）），潜伏キリシタンの伝統が終焉を迎える契機となった出来事が起こり、各地の潜伏キリシタン集落と関わった大浦天主堂から構成される。

【暫定一覧表記載年】平成19（2007）年



原城跡



天草の崎津集落



大浦天主堂



これまでの経緯と今後のプロセス

平成28年	7月25日	文化審議会において、平成28年度推薦候補に選定
	9月26日	ユネスコ世界遺産センターへ推薦書暫定版を提出
	12月22日	文化審議会において、推薦書正式版の提出を決定
平成29年	1月中	世界遺産条約関係省庁連絡会議(外務省主宰)
	1月中	推薦書正式版の提出について閣議了解(予定)
	2月1日まで	ユネスコ世界遺産センターへ推薦書正式版を提出
	9月頃	イコモス(※)による現地調査
平成30年	5月頃	イコモス勧告
	夏	ユネスコ世界遺産委員会で決議

イコモスの勧告と世界遺産委員会決議について

○文化遺産に係るユネスコ世界遺産登録の可否については、イコモスが以下の4つの区分で勧告。

○最終的にはユネスコ世界遺産委員会において決定。

①**記載**：世界遺産一覧表に記載する。

②**情報照会**：追加情報の提出を求めた上で次回以降の審議に回す。3年以内に追加情報の提出を行った後、現地調査手続きを除くイコモスの審査を受ける。

③**記載延期**：より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要。推薦書を再提出した後、新規案件と同様の手続きを受ける。

④**不記載**：記載にふさわしくないもの、例外的な場合を除き再推薦は不可。

(※) 国際記念物遺跡会議 (International Council on Monuments and Sites (イコモス))

：ユネスコ世界遺産委員会の諮問機関。文化財の保存、修復、再生などを行う国際非政府間組織(NGO)。

本拠地はパリ。1964年設立。